

# 道の駅「あいお」移転整備事業 基本設計【概要版】

令和7年1月  
山口市農林水産部農山村づくり推進課

はじめに

- 1 整備概要
- 2 基本設計の方針
- 3 設計のコンセプト
- 4 敷地全体配置計画
- 5 建物平面計画
- 6 施設の特徴
- 7 施設目標・工程計画・概算事業費

## はじめに

本市では、令和4（2022年）8月に「道の駅『あいお』移転整備基本計画」を策定し、道の駅「あいお」の移転整備に向けて、秋穂地域の皆様や道の駅関係者の皆様と共に検討を進めてきました。

この度、移転整備における具体的な整備項目を明らかにし、実施設計につなげていくため、「道の駅『あいお』移転整備事業基本設計」を取りまとめました。

### 現在の道の駅「あいお」の概要

道の駅登録	平成6年8月4日 山口県第4号
所在地	山口市秋穂東1520番地4
敷地面積	2,561㎡
延床面積	145.89㎡（地域振興施設棟99.81㎡、トイレ棟46.08㎡）
階数	1階
構造	木造
駐車台数	普通車16台、大型車3台、車いす使用者専用2台
トイレ器数	男性用 小便器5器、大便器2器 女性用 5器 バリアフリートイレ 1器
周辺道路	県道大海秋穂二島線
その他	土砂災害警戒区域の指定範囲内

### 現在の道の駅「あいお」外観



# 1 整備概要

## 道の駅「あいお」の移転整備地

### (1) 敷地概要

所在地	山口市秋穂東1258番1他
敷地面積	約13,000㎡
区域指定	山口市計画区域（非線引き） 用途地域の指定のない地域 特定用途制限地域 景観条例 一般区域 田園・集落地ゾーン 建築基準法第22条区域
建ぺい率／容積率	70% ／ 200%
周辺道路	県道宇部防府線、県道大海秋穂二島線 市道中条線、市道大海峠横田線
その他	敷地東側一部が高潮浸水想定区域（浸水深0.5m未満）



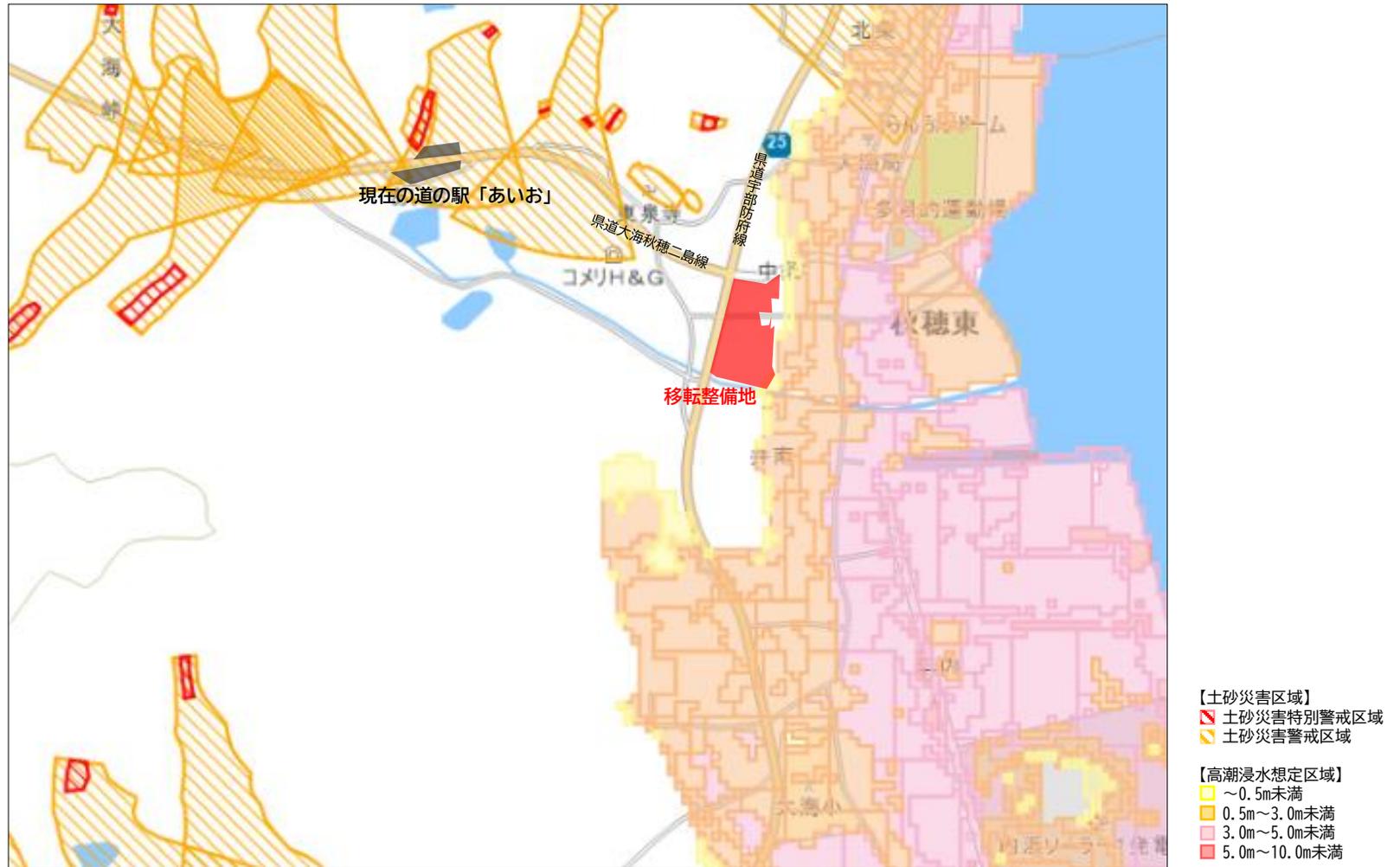
### (2) 建物概要

建築面積	2,100.15㎡
延床面積	2,000.11㎡（A棟・B棟：1,101.33㎡、C棟：231.00㎡、トイレ棟：66.78㎡、大屋根ひろば棟：601.00㎡）
階数	地上1階
構造	A棟・B棟・C棟・トイレ棟：鉄骨造　大屋根ひろば棟：木造
駐車台数	普通車110台、大型車9台、車いす使用者等専用3台、従業員用20台程度
トイレ	男性用 小便器7器、大便器4器（うち24時間利用可能な器数 小便器5器、大便器2器） 女性用 10器（うち24時間利用可能な器数 6器） バリアフリートイレ 2器（うち24時間利用可能な器数 1器）

### (3) 敷地位置図

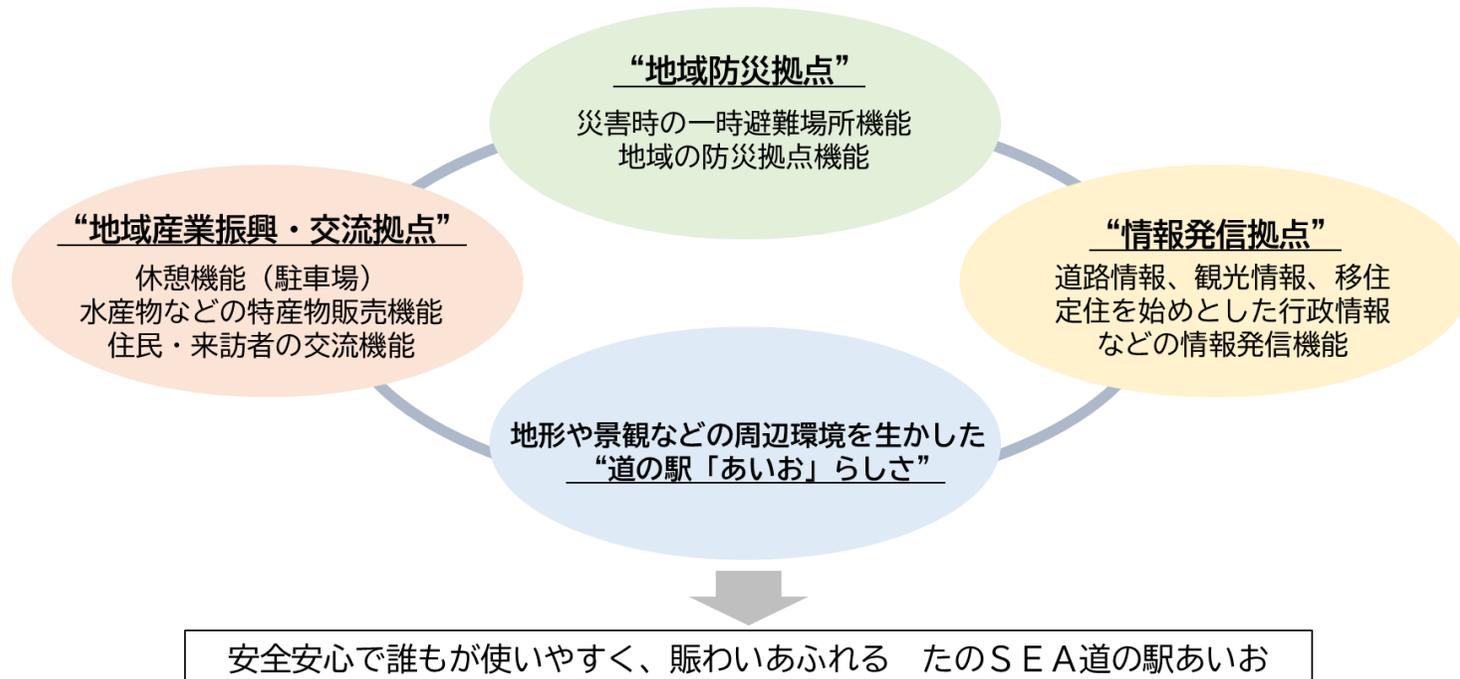
道の駅「あいお」の移転先は、現在の道の駅の東側約400mに位置する県道宇部防府線と県道大海秋穂二島線の交差点南東角の敷地です。

当該敷地は、土砂災害警戒区域及び高潮浸水想定区域の区域外（東側の一部を除く。）であり、災害リスクが比較的 low、大海地区からも近いため、一時避難場所としての活用も可能となります。



## 2 基本設計の方針

令和4年8月に策定した道の駅「あいお」移転整備に係る基本計画における「地域防災拠点」・「地域産業振興・交流拠点」・「情報発信拠点」の3つの方向性に加え、移転整備地における「地形や景観などの周辺環境を生かした道の駅『あいお』らしさ」の実現に向けた整備を行うことを基本設計の方針とします。



### 地域防災拠点

災害発生時の一時避難場所として利用可能な施設とするとともに、食料・飲料水、毛布、燃料等の備蓄機能を備えた地域防災拠点としても活用可能な施設とします。

### 地域産業振興・交流拠点

誰もが快適に買い物等ができるとともに、秋穂地域をはじめ、周辺で獲れた水産物や農産物をPRすることで、地域産業の活性化につながる施設とします。  
また、誰でも気軽に立ち寄りやすく、地域の子供たちや訪れた家族が安全安心に遊べる憩いの場とします。

### 情報発信拠点

道路情報や災害等の緊急時に必要な情報の提供、周辺の観光施設や地域資源の情報、移住定住を始めとした行政・手続に関する情報を提供する機能を備え、地域内外をつなぐ施設とします。

### 道の駅「あいお」らしさ

敷地が持つ棚田状の地形や大海湾の眺望など、秋穂ならではの地形や景観と一体となった賑わいを生む施設とします。

### 3 設計のコンセプト

#### コンセプト

#### 「個性」と「安心」の地域づくり

道の駅は、ドライバーの休憩拠点として、また、地域資源を活用した地域経済の活性化に向けた地域産業振興・交流拠点や情報発信拠点として、新たな人の流れを呼び込むとともに、地域住民の皆様にとって日常的に利用しやすい地元の商店街であり防災拠点であることが重要です。

そのため、「地域内外の双方から求められる交流拠点」を目指し、次の2点をコンセプトに設計を行います。

#### 1 あいおの「個性」

秋穂地域には、あいおえびに代表される豊かな海洋資源を有する瀬戸内海の大海湾に面しながら、山や水田の風景が今も残っています。

こうした個性を生かし、道の駅「あいお」は、海辺の田園集落に溶け込む、海と山の双方の魅力を合わせ持つ施設として、既存の棚田地形を残した広場の中に「大屋根ひろば」と「にぎわい参道」を設け、各棟から直接アプローチできる配置とします。

また、大屋根の形状を木造茅葺古民家のような寄棟屋根とし、地域内外の人々を迎え入れる、周辺の景観に溶け込んだ道の駅「あいお」のシンボルとします。併せて、施設全体の仕上げ材にできるだけ木材や自然素材を使用することで、温かみのあるデザインとします。

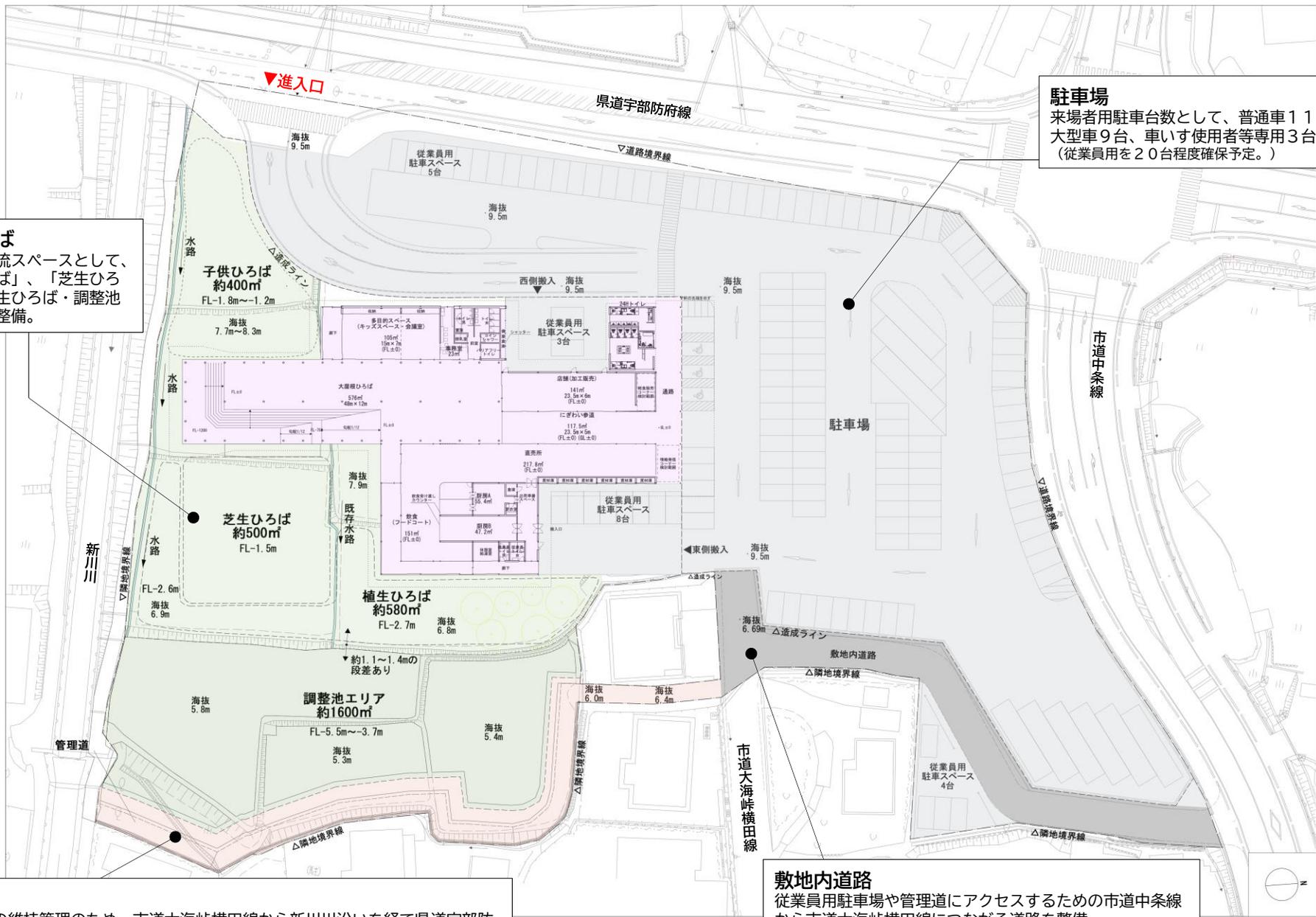
#### 2 今と未来の「安心」

自然災害への備えとして「防災機能」を強化しながら、地球環境にも配慮した施設とすることで、「今の安心」と「未来の安心」を実現します。高潮対策として施設全体を高床とすることで、県道宇部防府線の高さと合わせ、駐車場から施設全体への動線をバリアフリー化し、同時に大海湾への眺望も確保します。

また、東からの海風を考慮した計画とすることで、自然エネルギーの利用による建物内外のエネルギー利用の効率化を図るとともに、メンテナンス性に配慮した設計とします。

併せて、周辺住民の皆様の生活環境に影響が生じないように、騒音や夜間の光害に配慮した施設配置とします。

## 4 敷地全体配置計画



**屋外ひろば**  
屋外での交流スペースとして、「子供ひろば」、「芝生ひろば」、「植生ひろば・調整池エリア」を整備。

**駐車場**  
来場者用駐車台数として、普通車110台、大型車9台、車いす使用者等専用3台を確保。(従業員用を20台程度確保予定。)

**管理道**  
敷地全体の維持管理のため、市道大海峠横田線から新川川沿いを経て県道宇部防府線につながる管理道を整備。(新川川沿いの管理道は、実施設計で詳細を検討)

**敷地内道路**  
従業員用駐車場や管理道にアクセスするための市道中条線から市道大海峠横田線につながる道路を整備。

※現時点でのイメージであり、実施設計において変更となる可能性があります。

(敷地全体イメージ図)



※現時点でのイメージであり、実施設計において変更となる可能性があります。



(建物外観イメージ図)



※現時点でのイメージであり、実施設計において変更となる可能性があります。

## 6 施設の特徴

### (1) 建物の概要

#### ①大屋根ひろば

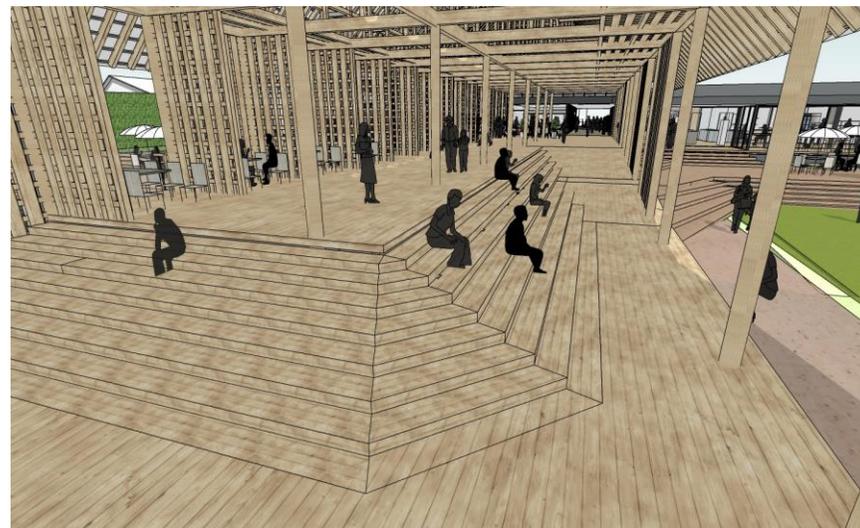
「大屋根ひろば」は、施設全体のシンボルとなる大屋根の下の全天候型・半屋外多目的の広場です。

地域の水産物や農産物が並ぶ直売所やフードコート（A棟）、地元住民の皆様も利用しやすい飲食販売店舗（B棟）とバリアフリーで一体的につながり、利用・管理しやすい施設構成とします。

店舗で購入したものを座って食べられるよう、階段状のテラスや、テーブル・椅子を設置し、半屋外のカフェテリア・休憩所としても利用可能です。

イベント時には、多目的スペース（C棟）、子供ひろばや芝生ひろばと一体的な活用が可能となり、イベント（魚食体験）、演奏会など、季節ごとの地域密着型・全天候型のイベントスペースとして活用が可能となります。

多目的スペース（一時避難場所等）・備蓄倉庫・コインシャワー・トイレ・授乳室等ともバリアフリーでつながり、賑わいだけではなく地域防災拠点としての大きな庇として機能します。



#### ②にぎわい参道

屋根付きの「にぎわい参道」は、参道両脇の、水産物や農産物が並ぶ直売所（A棟）や地元住民の皆様も利用しやすい飲食販売店舗（B棟）の賑わいを感じながら、大屋根ひろばへとつながる、駐車場から施設全体へ賑わいを導く全天候型のメイン動線として機能します。



### ③A棟

直売所、飲食提供機能、出荷準備スペース、従業員用のトイレ・休憩場所を設置します。  
直売所では、秋穂地域を中心に、地域の新鮮な水産物、農産物、加工品等を販売するスペースを設置します。また、厨房Aの部分には、地元で獲れた魚を販売する鮮魚販売スペースを設置します。  
飲食提供機能では、食券制のフードコート形式を想定し、海鮮丼やえびフライ定食など、地域の特色ある「食」の提供を行います。また、大海湾への眺望を確保するため、東側に窓を設置し、開放感のある配置とします。  
出荷準備スペースは、厨房と駐車場の間に設け、円滑な搬入や出荷準備を可能とします。  
また、従業員用のトイレや休憩場所を確保し、働きやすい職場環境づくりを図ります。

### ④B棟

A棟の直売所、飲食提供機能と連携し、地域の「食」をPRするとともに、地域住民の皆様が日常的にも利用しやすく、道の駅「あいお」の集客力を高めることにつながる店舗を設置します。  
また、駐車場側には、テイクアウト可能な商品を提供する店舗の設置を検討します。

### ⑤C棟

多目的スペース、事務室、トイレ、授乳室、コインシャワー、備蓄倉庫を設置します。  
多目的スペースは、子供の屋内の遊び場として活用しつつ、必要に応じ、会議室や一時避難場所としての利用を可能とします。  
トイレには、男性用小便器2器、大便器2器、女性用4器、バリアフリートイレ1器を設置します。  
24時間利用可能な授乳室、災害時にも使用可能なコインシャワーを設置します。  
事務室は、行政情報の発信や行政手続の案内にも対応可能な計画とします。  
災害時に必要な物資等を備蓄できる倉庫を設置します。

### ⑥情報発信コーナー

道路情報や災害情報など、道路利用者に必要な最新情報が24時間確認できるよう、大型モニターや周辺道路地図の設置を検討します。また、大型モニターでは、秋穂地域を始めとする周辺の観光情報、移住定住に関する情報の発信も行います。

### ⑦24時間トイレ

道路利用者の休憩機能として必要な便器数を設置します。  
便器数は「東日本・中日本・西日本高速道路株式会社 設計要領」に基づいて算出した駐車まず数を基に、国土交通省中部地方整備局が示す基準や市内の道の駅の設置状況を踏まえ、男性用小便器5器、大便器2器、女性用6器、バリアフリートイレ1器を設置します。  
また、子育て支援機能として、子供用の便器・手洗い場、ベビーチェアの設置を検討します。

(飲食提供機能(フードコート形式)イメージ図)



※現時点でのイメージであり、実施設計において変更となる可能性があります。

## (2) 建物周辺の概要

### ①屋外ひろば

棚田状の既存地形を生かしながら、秋穂地域の豊かな自然が体感できる「子供ひろば」、「芝生ひろば」、「植生ひろば・調整池エリア」を配置します。



※現時点でのイメージであり、実施設計において変更となる可能性があります。  
(新川川沿いの管理道については、実施設計において詳細を検討します。)

#### ・子供ひろば

「子供ひろば」では、噴水の設置を検討し、子供が水と親しみながら遊べる空間とします。  
「大屋根ひろば」やC棟の多目的スペースからアクセスしやすい配置とします。

#### ・芝生ひろば

「芝生ひろば」は、屋外でのイベントが開催可能な空間とします。  
「大屋根ひろば」からアクセスしやすい配置とし、「大屋根ひろば」と連携したイベントの開催も想定した空間とします。

#### ・植生ひろば、調整池エリア

秋穂地域の自然が体感できる空間とします。家族連れが散歩できるような仕掛けを検討します。  
また、近隣住民の皆様の生活に影響が生じないよう配慮した空間とします。

### ②駐車場

道路利用者の休憩機能として必要な駐車台数を確保します。

駐車台数については、前面道路である県道宇部防府線の交通量を用いて、「東日本・中日本・西日本高速道路株式会社 設計要領」に基いたサービスエリア（SA）基準で算出し、普通車110台、大型車9台、車いす使用者等専用3台を確保します。また、従業員用を20台程度確保します。

駐車場整備に当たっては、利用者が駐車しやすく安全に利用できるよう、十分な駐車スペースと車路の幅員を確保した計画とします。

車いす使用者等専用駐車場については、駐車場の上部に屋根を設け、利用者の利便性向上を図ります。

電気自動車（EV）充電施設を設置した駐車スペースを設置します。

(駐車台数については、実施設計において変更となる可能性があります。)

### ③近隣住民への配慮

騒音や光害対策等としてフェンスや植栽帯等の設置を検討し、近隣住民の皆様の生活環境に配慮した計画とします。

市道大海峠横田線から新川川沿いを経て県道宇部防府線につながる管理道を整備します。また、市道大海峠横田線を分断するかたちで整備を行うこととなるため、敷地内に市道中条線につながる道路を整備し、近隣住民の皆様の生活動線を確保した計画とします。

### (3) 防災対策・災害時の対応等

#### ①防災対策

施設の防災対策として施設全体を高床として計画します。液状化の危険性を踏まえ、液状化の影響を受けない安全な岩盤を支持地盤とし、鋼管杭で建物の荷重を直接岩盤まで伝達する基礎計画とします。構造体の耐震性能は、II類とします。

#### ②災害時の対応等

災害時における一時避難場所としての利用を想定し、非常用電源設備や災害時に利用可能な備蓄倉庫等を設けます。

国の「道の駅」第3ステージにおける災害時の防災拠点機能の方向性を踏まえ、災害時の地域内の輸送拠点として活用可能な施設とします。また、被災地における他市町村等からの応援部隊の集合地点としての活用も想定します。

施設内の掲示板や大型モニターで、災害時における通行止めや災害情報の提供など、施設利用者が必要とする情報をリアルタイムで発信することを目指します。

### (4) ユニバーサルデザイン計画

障がいの有無、年齢、性別にかかわらず、誰でも利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した計画とします。

- ・動線  
主要な動線には視覚障がい者用誘導ブロックを設置します。  
駐車場から施設に導く「にぎわい参道」には、雨に濡れずに移動できるよう屋根を設置し、極力段差のないように計画します。  
車いすやベビーカーの利用者に配慮したゆとりある通路幅を確保します。  
施設は全て平屋とし、段差のある箇所などにはスロープを配置します。
- ・駐車場  
「東日本・中日本・西日本高速道路株式会社 設計要領」に基づきサービスエリア（SA）基準で整備し、安全で利用しやすいバリアフリーな駐車場とします。  
アクセスの良いメインエントランス付近に、屋根付きの車いす使用者等専用駐車場を配置します。
- ・事務所カウンター、インフォメーション窓口  
視認しやすい、大屋根ひろばに面した位置に設置し、車いすを利用される方も使いやすいローカウンターを設けます。
- ・サイン  
来館者が安心して利用できる、誰にとってもわかりやすいサイン（ピクトグラムサイン）計画とします。  
情報をわかりやすく提供し、円滑な移動、行動を支援します。
- ・トイレ  
様々な障がい等に対応できるバリアフリートイレを設置します。  
おむつ替え、授乳室、子供用便器、子供用手洗い場、トイレ音声案内などを設置します。

### (5) 構造計画

建物全体の耐震性能を確保しながら、効率化・軽量化とバリアフリーを実現する平屋建築とします。大屋根ひろば棟は寄棟屋根とし、伝統工法を生かした温かみのある木造とします。その他の各棟は、道の駅の諸機能に適した鉄骨構造とします。

また、本敷地は液状化の危険性があると考えられるため、液状化の影響を受けない安全な岩盤を支持地盤とし、鋼管杭で建物の荷重を直接岩盤まで伝達する基礎計画とします。構造体の耐震性能は、II類とします。

#### ①A棟、B棟（準耐火建築物）

【建物用途】  
物品販売業を営む店舗  
【規模・構造】  
延べ面積 : 1,101.33㎡  
構造 : 鉄骨造

#### ②C棟

【建物用途】  
会議室、事務所  
【規模・構造】  
延べ面積 : 231.00㎡  
構造 : 鉄骨造

#### ③大屋根ひろば棟

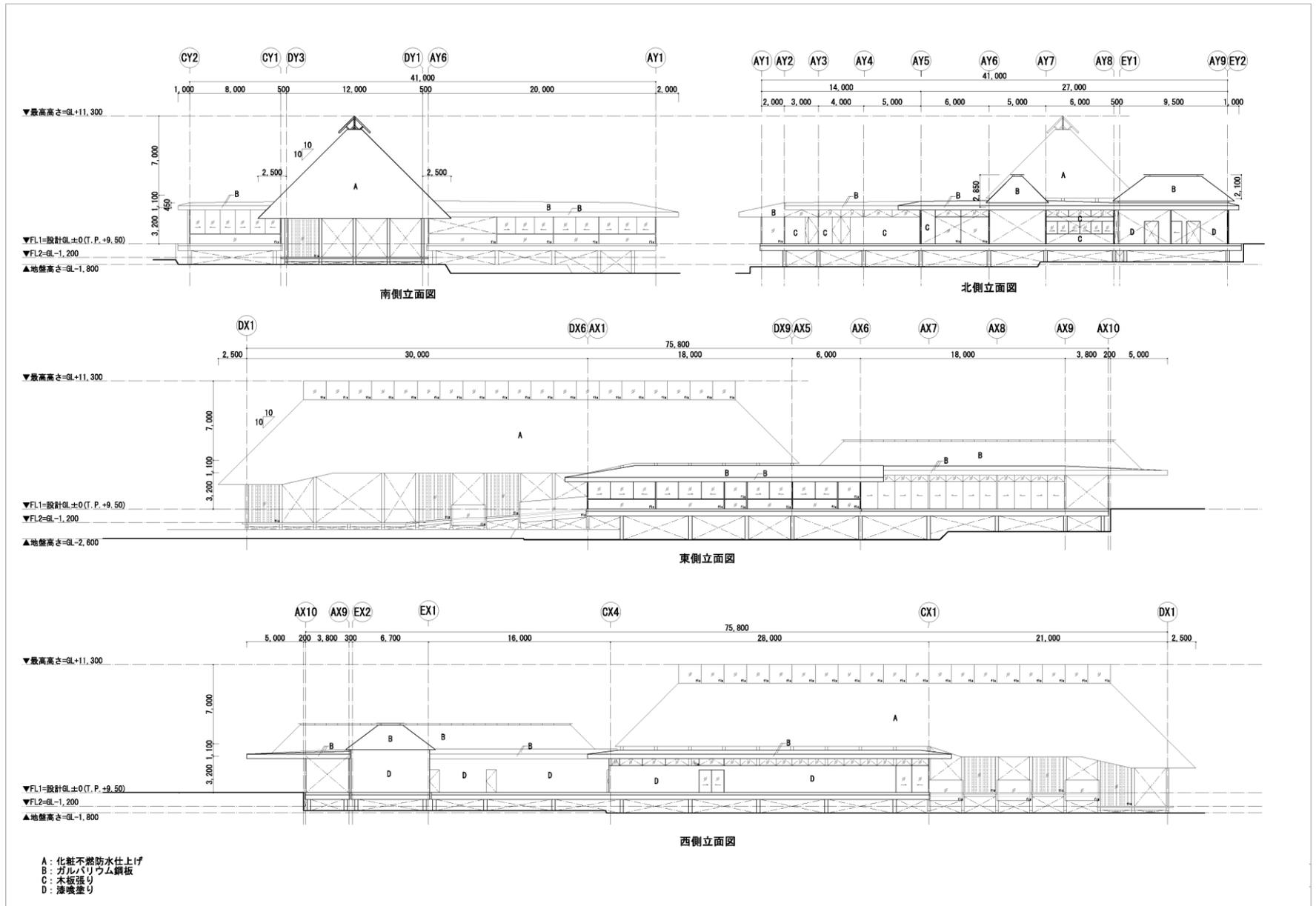
【建物用途】  
休憩所  
【規模・構造】  
延べ面積 : 601.00㎡  
構造 : 木造

#### ④トイレ棟

【建物用途】  
公衆便所  
【規模・構造】  
延べ面積 : 66.78㎡  
構造 : 鉄骨造

# (6) 立面・断面計画

## (立面図)



※現時点でのイメージであり、実施設計において変更となる可能性があります。



## 7 施設目標・工程計画・概算事業費

### (1) 施設目標

#### 数値目標1 来場者数(人)

来場者数については、移転整備による施設面積の拡大により、令和12年度に55万人を目指します。その後も、重点的に情報発信に取り組むことで、毎年1万人の増加を目指します。

実績値(現在の道の駅「あいお」)

令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
186,801	198,450	206,469	206,751	212,067

目標値(移転後の道の駅「あいお」)

令和10年度(※)	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
335,000	540,000	550,000	560,000	570,000

(※) 移転後の道の駅の供用開始時期を令和10年秋頃とし、現在の道の駅の営業をそれまで継続するため、令和10年度の目標値は、現在の道の駅と移転後の道の駅の合計とします。

#### 数値目標2 水産物等売上高(千円)

水産物等売上高については、売り場面積の増加、地元の漁業関係者との連携強化により、令和12年度に140,000千円を目指します。また、魅力ある売り場づくり、情報発信に取り組むことで、一人当たりの売上単価の増加を図ります。

実績値(現在の道の駅「あいお」)

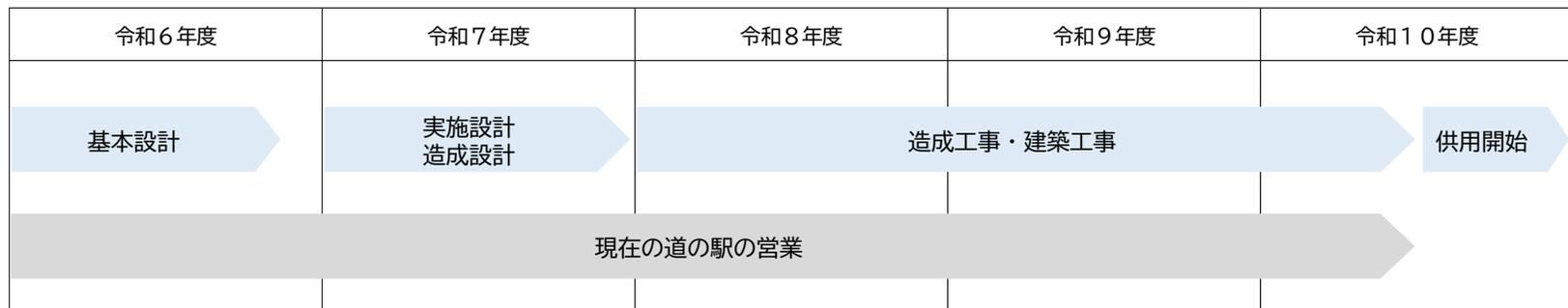
令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
19,801	27,074	28,645	28,393	29,401

目標値(移転後の道の駅「あいお」)

令和10年度(※)	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
70,000	120,000	140,000	150,000	160,000

(※) 移転後の道の駅の供用開始時期を令和10年秋頃とし、現在の道の駅の営業をそれまで継続するため、令和10年度の目標値は、現在の道の駅と移転後の道の駅の合計とします。

## (2) 工程計画



令和7年度に実施設計・造成設計を行い、令和8年度から造成工事・建築工事を進め、令和10年秋頃の供用開始を目指します。

工事については、「山口市ふるさと産業振興条例」の趣旨を踏まえ、極力、市内事業者の施工が可能となるかたちでの実施設計の検討を行います。（ただし、専門工事は除く。）

整備手法については、現在の道の駅が一体型（※）による整備であることを踏まえ、道の駅移転後における現在の道の駅の跡地の利活用を含めて、県と調整を図りながら検討することとします。

なお、現在の道の駅については、移転後の道の駅が供用を開始する令和10年秋頃まで営業を継続することとします。

（※）一体型整備とは、地域振興施設等を市が、駐車場等の一部を道路管理者が整備するもの。

## (3) 概算事業費

約20億円を想定しています。

なお、実施設計における詳細検討や、今後の物価高騰の影響等により、事業費に増減が生じる可能性があります。

また、財源は、国の交付金等の活用を検討し、その他の部分に関しても、より有利な地方債の活用を検討します。